様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　５月２５日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究（Ａ）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０２４２０２６
研究課題名（和文）　身体化された心の人類学的解明

研究課題名（英文）　Anthropological Inquiry into the Embodied Mind

研究代表者
菅原　和孝（SUGAWARA KAZUYOSHI）
京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授
研究者番号：80133685

研究成果の概要（和文）：「身体化された心」を軸に、フィールドワークと理論的探究とを統合することによって、社会の構造と実践の様態を解明することを目的とした。フィールドワークでは「心／身体」「文化／自然」といった二元論を克服する記述と分析を徹底し、理論探究では表象主義を乗り超える新しいパラダイムを樹立した。「身体化」に着目することによって、認知と言語活動を新しい視角から照射し、民族誌的な文脈に埋めこまれた行為と実践の様態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this project is to elucidate the structure of local societies, as well as the ways in which the people organize their practices, by integrating the fieldwork researches and theoretical investigations. In our fieldworks, we made the fullest effort to produce the descriptions and analyses that could overtake the dichotomy such as mind/body or culture/nature, while through our theoretical investigations we succeeded in establish a new paradigm that transcends the dominant theories focusing on representations. Paying our attentions to the embodiment, we threw light onto the cognition and language activities, and revealed local manners of social acts and practices, from a new vantage point.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	12,100,000	3,630,000	15,730,000
２００９年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
２０１０年度	8,300,000	2,490,000	10,790,000
２０１１年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
年度			
総　計	34,600,000	10,380,000	44,980,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学
キーワード：身ぶり・環境認識・宗教実践・記憶探索・アフォーダンス・心身二元論批判・心の所在・集合暴力

１．研究開始当初の背景

（１）表象主義の支配：文化人類学で一時代を画したパラダイムの根底にはつねに表象主義が横たわっていた。表象主義とは、人間が生きる意味世界を社会の成員たちの「心」に分有された表象の集積体に還元する考えかたである。1980 年代以降、表象の均質な共有を前提とした民族誌記述に対する反省が深まるなかで、身体、感情、ハビトゥス、実践といった位相に注目する試みが蓄積されてきた。

（２）認識人類学の成果：認識人類学では、

認知科学と連携しながら、経験的な探究が積み重ねられてきた。この動向は、「心の哲学」で発展した反表象主義と結合し、「身体化された心」と総称される知の潮流を生みだした。この潮流こそ、２１世紀の文化人類学にとって比類ない可能性をもっている。

２．研究の目的

「身体化された心」を軸に、フィールドワークと理論的探究とを統合することによって、人間社会の構造と人びとの実践の様態を実証的に解明することを目的にする。フィールドワークでは、「心／身体」「文化／自然」といった二元論を克服する観察・記述・分析を徹底し、理論探究では、文化人類学を支配してきた表象主義を乗り超える新しいパラダイムを樹立することをめざす。

３．研究の方法

研究代表者・研究分担者・連携研究者の計１３名が、４本の通路から心の系譜と身体の系譜を連関させながらフィールドワークと理論的探究を実行し、その成果を擦りあわせて、心身を統合した人間理解を達成する。

（１）「身体化された心」の認知的構成：知覚・空間・記憶に焦点を定め、身体的な活動を通じて「心」が生態環境・社会環境と切り結び、そこへ定位される様相を解明する。

（２）言語の身体化：抽象的な思考が発話者の身ぶりと連動して生成する過程や、テクストの暗記と身体技法との結合を分析することによって、言語の身体的基盤を照射する。

（３）感情の身体性と論理：性と暴力の経験を主題にした朗唱や歌に注目し、口頭言語の修辞的な特性とともに、それを彩る表情的な所作を分析し、情動の身体性を照らしだす。

（４）間身体的な場で生成する実践を、精霊祭祀や独立教会の活動に注目して分析することにより、グローバリゼーションに抗する現実構成とその変容過程を解明する。

４．研究成果

（１）研究会活動：４年間に２３回の研究会を開催し、以下の発表に基づき討議した。

①菅原「身体化された心の系譜」
②大村「アフォーダンスと記憶」
③鈴木「身体化された心と表象主義」
④木村「相互行為参与者の同型性」
⑤青木「声の力の現象学」
⑥定延「文法の身体的動機づけ」
⑦藤田「民俗芸能と暗唱」
⑧高木「記憶の共同探索」
⑨水谷「バーチャルリアリティと身体」
⑩細馬宏通（滋賀県立大）「身ぶりの保持と隣接ペア」
⑪長澤壮平（南山大）「早池峰岳神楽の象徴と身体」
⑫石井「憑依と主体」
⑬金子守恵（京都大）「収穫物を束ねる身体」
⑭菅原「言語の手前から」
⑮内堀「心のあり処の民族学的比較」
⑯岩谷洋史（総合地球環境学研究所）「モノとの関係における身体」
⑰松田「暴力のなかの実存」
⑱岩谷彩子（広島大）「移動する身体」
⑲木村・亀井伸孝（愛知県立大）・森田真生（東京大）「数学的思考の身体性」
⑳花田里欧子（京都教大）「心理臨床における身体」
㉑菅原「相互行為から社会へ」
㉒渡辺文（一橋大）「関係性としてのスタイル」
㉓高木「他者の体験の時間に住み込む」
㉔古山宣洋（国立情報学研究所）「話者の行為可能性と聞き手の身体」
㉕長澤志穂（南山大）「道教の瞑想法」
㉖松嶋健（京都大）「イタリア地域精神保健における演劇ラボラトリー」
㉗菅原「３年間の回顧」。
㉘定延「身体化された言語・文法の姿を探る」
㉙近藤和敬（研究協力者、大阪大）「数学的経験における問いと身体」
㉚鈴木「身体化された心と反表象主義」
㉛木村「数学をめぐる会話における指示と操作」
㉜大村「交合する身体：心的表象なき記憶とことばのメカニズム」
㉝河合「身体という自然：牧畜民チャムスの身体をめぐる認識論と存在論」
㉞石井「「不浄」から「野生の聖」へ：南インドのブータ祭祀におけるヒエラルキー、憑依、環境ネットワーク」
㉟藤田「言葉と身体行動との組み合わせ：西浦田楽の伝承現場から」
㊱長澤壮平（研究協力者、中京大学）「山と踊る身体=心：身体化するイメージと踊り」
㊲松嶋健（研究協力者、京都大学）「精神医療の生態学的転回　：テリトリーのなかの／としての心」
㊳内堀「「心」は身体的にしか語れない：心、命、魂、そして精神は体のどこにあるのか」
㊴菅原「身体化の人類学へ向けて：生命科学とのねじれた関係」

（２）研究成果の公表：ウェブサイトで研究成果の公表を行ない、逐次更新した。

（３）研究代表者と研究分担者は、文化人類学・心の哲学・認知科学・宗教学の文献資料を収集した。

（４）個人別フィールドワークと研究活動：

①菅原（ボツワナ）情動経験の談話と身ぶり
②松田（西ケニア）独立教会の身体介入拒否
③内堀（サラワク）心の身体的所在
④青木（インドネシア）声の肌理と官能性
⑤河合（北ケニア牧畜民）五感の知覚経験

⑥大村（カナダ）環境のアフォーダンス
⑦石井（インド）憑依と儀礼的身体
⑧水谷（日本）会話倫理をめぐる理論構築
⑨木村（日本）数学者の会話分析

（５）成果出版に向けて：研究代表者・分担者・連携研究者全員に加え研究協力者３名を加え、計 16 名の寄稿者によって『身体化の人類学』（世界思想社）の執筆と編集作業を進め、京都大学教育研究振興財団の研究成果出版助成金を得て、平成 24 年度中に刊行する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 73 件）

① Sugawara, Kazuyoshi 2012 Interactive significance of simultaneous discourse or overlap in everyday conversations among |Gui former foragers. *Journal of Pragmatics* 44: 577-618.［査読有り］
②松田素二 2012「市場経済に潜り込む生業世界」『生業と生産の社会的布置』国立民族学博物館, pp. 365-400. ［査読有り］
③Kimura, D., H. Yasuoka and T. Furuichi 2012 Diachronic change of protein acquisition among the Bongando in the Democratic Republic of the Congo. *African Study Monographs, Supplementary Issue* 43 : 161-178. ［査読有り］
④Yasuoka, H., D. Kimura, C. Hashimoto and T. Furuichi 2012 Quantitative assessment of livelihood around great ape reserves: Cases in Luo Scientific Reserve, DR Congo and Kalinzu Forest Reserve, Uganda. *African Study Monographs Supplementary Issue* 43 : 137-159. ［査読有り］
⑤石井（舟橋）美保 2012 「虚焦点としての真正性」『コンタクトゾーンの人文学―Religious Practices/宗教実践―』（田中雅一・小池郁子編）晃洋書房, pp. 3-24.［査読無し］
⑥内堀基光 2012「ザフィマニリ集落とヴァトゥ・ラヒ建立をめぐる覚え書き」『マダガスカル地域文化の動態』（飯田卓編）人間文化研究機構国立民族学博物館，pp. 171-185. ［査読有り］
⑦定延利之 2012「ジェスチャーとしての感動詞と終助詞」『日本語学』31（3）: 40-51. ［査読無し］
⑧Uchibori, Motomitsu 2011 Theoretical Themes for an Anthropology of Resources. *Social Science Information* 50 (1) : 142-153.［査読有り］
⑨松田素二 2011「海外フィールドワーク『フィールドワーカーズハンドブック』世界思想社, pp. 87-103.［査読無し］
⑩松田素二 2011「理不尽な集合暴力は誰がどのように裁くことができるか--ケニア選挙後暴動の事例から」『フォーラム現代社会学』10：37-49. ［査読有り］
⑪松田素二 2011「二種類の真実――現代アフリカ社会の紛争と和解から」『世界思想』38：5-8. ［査読無し］
⑫木村大治 2011「約物論事始」『理 コトワリ』28：2-3（関西学院大学出版会）.［査読有り］
⑬石井（舟橋）美保 2011「呪術的世界の構成―自己制作、偶発性、アクチュアリティ」『現実批判の人類学』（春日直樹編）世界思想社, pp. 181-202. ［査読無し］
⑭内堀基光 2011「サラワク・イバン社会総体の生業布置---それはいかに語りうるか」『グローバリゼーションと〈生きる世界〉――生業からみる人類学的現在』（松井健編）昭和堂, pp. 21-63. ［査読無し］
⑮定延利之・羅米良 2011「文法・パラ言語情報・キャラクタに基づく日本語名詞性文節の統合的な記述」『Journal CAJLE』12：77-95. ［査読有り］
⑯定延利之 2011「コミュニケーション研究からみた日本語の記述文法の未来」『日本語文法』11（2）：3-16. ［査読有り］
⑰定延利之 2011「身体としてのことばー「スタイル」の限界ー」『通訳翻訳研究』11：49-74. ［査読無し］
⑱定延利之 2011「音声コミュニケーション」『これからの語彙論』（斎藤倫明・石井正彦編）ひつじ書房, pp. 125-134. ［査読無し］
⑲石井（舟橋）美保 2010 「神霊との交換--南インドのブータ祭祀における慣習的制度、近代法、社会的エイジェンシー」『文化人類学』75-1：1-26.［査読有り］
⑳ Uchibori, Motomitsu 2010 My kind of ethnology/anthropology: On the determined schism between micro- and macro-scale perspectives. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 11: 3-23. ［査読有り］
㉑大村敬一 2010「自然＝文化相対主義に向けて--イヌイトの先住民運動からみるグローバリゼーションの未来」『文化人類学』75 (1)：54-72. ［査読有り］
㉒定延利之 2010「「た」発話をおこなう権利」『音声研究』14（3）：27-39. ［査読有り］
㉓Sadanobu, Toshiyuki & Malchukov, A. 2010 Evidential extension of aspect-temporal forms in Japanese from a typological perspective. *Cahier Chronos* 23：141-158. ［査読有り］
㉔ Sugawara, Kazuyoshi 2009 Speech Acts, Moves, and Meta-communication in Negotiation: Three cases of everyday conversation observed among the |Gui former foragers. *Journal of Pragmatics* 41 (1) : 93-135.

［査読有り］
㉕水谷雅彦　2009　「バーチャルリアリティは「悪」か？」『哲学』60：67-82. ［査読有り］
㉖Lingomo B. and D. Kimura 2009 Taboo of eating bonobo among the Bongando people in the Wamba region, Democratic Republic of Congo. *African Study Monographs* 30 (4)：209-225. ［査読有り］
㉗石井（舟橋）美保 2009「序ーメタモルフォーシスの人類学」『文化人類学』74（3）：414-422. ［査読有り］
㉘内堀基光 2009「マクロとミクロに引き裂かれてあるものとしての（私の）民族学／人類学」『文化人類学』74（3）：373-389. ［査読有り］
㉙青木恵理子 2009「ネオリベラルな現在(いま)において人類学のできること」74（2）：316-337. ［査読有り］
㉚Fujita, Takanori 2009 No and kyogen: Music from the medieval. IN A.M.Tokita & D.W.Hughes,eds. *The Ashgate Research Companion to Japanese Music*. Aldershot: Ashgate Publishing, pp. 127-144.［査読有り］
㉛鈴木貴之 2009「脳科学と自由意志」『科学哲学』42（2）：13-28. ［査読有り］
㉜ Sugawara, Kazuyoshi 2008 How Is the Memory of Ritual Articulated with 'Now-and-here' Context?: A Reconstruction of the Lost Initiation Ceremony of Male |Gui Bushmen. IN: H. Wazaki (ed.), *Multiplicity of Meaning and the Interrelationship of the Subject and the Object in Ritual and Body Texts: Proceedings of the Eleventh International Conference Studies for the Integrated Text Science (21st Century COE Program International Conerence Series No. 11).* Nagoya: Graduate School of Letters, Nagoya University, pp. 67-87. ［査読有り］
㉝菅原和孝 2008「コミュニケーションにおける自発性をめぐって──狩猟採集民におけるおとなと子どもの関わりから」『現代と保育』72：70-83. ［査読無し］
㉞水谷雅彦 2008 「だれがどこで会話をするのか──会話の倫理学へむけて」『実践哲学研究』31：1-18. ［査読有り］
㉟木村大治 2008「インタラクションの境界と接続」『電子情報通信学会技術研究報告（ヒューマンコミュニケーション基礎）』HCS2008-45：1-6. ［査読有り］
㊱青木恵理子 2008「現代インドネシアにおけるアイデンティティ問題系の多様性」『国際社会文化研究所紀要』10：247-266 ［査読有り］
㊲Kawai, Koari 2008 The epistemology and ontology of the Chamus in Kenya: The human body as nature. *African Study Monographs* 29 (3)：119-131. ［査読有り］
㊳定延利之 2008「伝達の構図にはまらない丁寧さ」『文学』9（6）：51-61. ［査読有り］

〔学会発表〕（計 10 件）
①菅原和孝「コミュニケーションの原点を求めて」第 37 回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 2011 年 5 月 29 日、長野市 JA 長野県ビル
②菅原和孝「狩猟採集民グイの動物談話にみる不可視の作用主」第 16 回生態人類学会、2011 年 3 月 19 日、京都大学。
③Sugawara, Kazuyoshi "The Repertoire of Body Metaphors and Their Usage in Everyday Discourse among the |Gui Former Foragers" 7th International Workshop of Emancipatory Pragmatics. 2011 年 2 月 28 日、共立女子大学。
④Matsuda, Motoji "Potentiality of Indigenous Knowledge at the times of Globalization From Experiences of Local Communities in Kenya, Nepal ,Thai and Japan" KYOTO INTERNATIONAL WORKSHOP 2010 The Roles of Local Knowledge in Globalized Context. 2010年11月22日、京都大学。
⑤Sugawara, Kazuyoshi "Personal Name as Mnemonic Device or Conversational Resource: A pragmatic/ethnographic study on the naming practice among the |Gui and ||Gana San" 11th International Pragmatics Conference 2009.7.17 Melbourne University, Australia.
⑥大村敬一 「イヌイトは何になろうとしているのか？―カナダ・ヌナヴト準州の IQ 問題にみる先住民の未来」日本文化人類学会第 42 回研究大会分科会「先住民とは誰か？」2008 年 6 月 1 日、京都大学。

〔図書〕（計 28 件）
①内堀基光 2012『「ひと学」への招待：人類の文化と自然』放送教育振興会, 196 pp.
②定延利之 2012『私たちの日本語』朝倉書店, 206 pp.
③Matsuda, Motoji (ed.) 2011 *The Roles of Local Knowledge in Globalized Context.* Kyoto: Department of Sociology, Kyoto University, 106 pp.
④定延利之 2011『日本語社会 のぞきキャラくりー顔つき・カラダつき・ことばつき』三省堂、206 頁。
⑤菅原和孝 2010『ことばと身体―「言語の手前」の人類学』講談社、277 頁。
⑥木村大治 2011『括弧の意味論』NTT 出版、248 頁。
⑦Tanaka, J. & Sugawara, Kazuyoshi (eds.) *An Encyclopedia of |Gui and ||Gana Culture and Society* Laboratory of Cultural Anthropology, Graduate School of Human and

Environmental Studies, Kyoto University, 142+ix pp.
⑧木村大治・北西功一 (編著) 2010『森棲みの生態誌 ーアフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』京都大学学術出版会, 425 pp.
⑨木村大治・北西功一 (編著) 2010『森棲みの生態誌 ーアフリカ熱帯林の人・自然・歴史 II』388 pp.
⑩河合香吏（編著）2010『集団―人類社会の進化』京都大学学術出版会、339 頁。
⑪木村大治・中村美知夫・高梨克也 (編著) 2010『インタラクションの境界と接続―サル・人・会話研究から』昭和堂、445 頁。
⑫藤田隆則 2010『能のノリと地拍子―リズムの民族音楽学』檜書店、270 頁。
⑬松田素二 2009『日常人類学宣言！生活世界の深層へ/から』世界思想社、343 頁。
⑭定延利之 2008『煩悩の文法 ↓体験を語りたがる人びとの欲望が日本語の文法システムをゆさぶる話 ↓』筑摩書房、200 頁。

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.embody.jinkan.kyoto-u.ac.jp/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
菅原　和孝（SUGAWARA KAZUYOSHI）
京都大学・人間環境学研究科・教授
研究者番号：８０１３３６８５

(2)研究分担者
松田　素二（MATSUDA MOTOJI）
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：５０１７３８５２
水谷　雅彦（MIZUTANI MASAHIKO）
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：５０２００００１
木村　大治（KIMURA DAIJI）
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授
研究者番号：４０２４２５７３
舟橋(石井)　美保（FUNAHASHI(ISHII) MIHO）
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：４０４３２０５９
内堀　基光（UCHIBORI MOTOMITSU）
放送大学・教養学部・教授
研究者番号：３０１２６７２６
青木　恵里子（AOKI ERIKO）
龍谷大学・社会学部・教授
研究者番号：４０１８０２４４
河合　香吏（KAWAI KAORI）
東京外国語大学・ｱｼﾞｱ･ｱﾌﾘｶ言語文化研究所・准教授
研究者番号：５０２９３５８５
大村　敬一（OMURA KEIICHI）
大阪大学・言語文化研究所・准教授

(3)連携研究者
藤田　隆則（FUJITA TAKANORI）
京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・准教授
研究者番号：２０２０９０５０
定延　利之（SADANOBU TOSHIYUKI）
神戸大学・国際文化学部・教授
研究者番号：５０２３５３０５
高木　光太郎（TAKAGI KOTARO）
青山学院大学・社会情報学部・教授
研究者番号：３０２７２４８８
鈴木　貴之（SUZUKI TAKAYUKI）
南山大学・人文学部・准教授
研究者番号：２０４３４６０７